資料３－４

『北海道史』教育小部会（2020.12.28）

「高等学校教育」の構成案　（担当：三上敦史）

1945～50 年代：戦後教育改革における高校

①高校教育のありよう

・新制高校への転換（1948）

・公立高校再編（1949-50）

・市町村立高校（定時制分校）の普及（1950 年代）

・私立高校の大増設（1950 年代）

②高校教育を取り巻く環境

・少年非行の第 1 のピーク（1951）

③学校間接続

・高校入試：中学校調査書のみによる選抜（1948）、中学校における学力検査（中 3 学力テスト）の実施（1952）、高校における学力検査の実施（1957）

・大学入試：進適（1948-54）と一期校・二期校方式（1949-78）

1960～70 年代：高校の準義務教育化&ランキング発生

①高校教育のありよう

・高校進学率の急上昇：全日制普通科志向の高まり＆定時制志願者の激減（1960 年代）

・高校設置数・入学定員の急増：市町村立高校の道立移管&全日制設置（1960～70 年代）、通信制の発足（1963）、道立全日制普通科高校の大増設（1970～80 年代）

・教員人事の変化：広域人事の導入（1965）、「人事異動実施要領」の制定（1978）

②高校教育を取り巻く環境

・少年非行の第 2 のピーク（1964）、第 3 のピーク（1976）

・教育問題の変化：高校紛争（1970 年代前半）、高校中退の社会問題化（1973 の「現代化カリキュラム」以降）

・専修学校制度の発足（1976）

③学校間接続

・第一次ベビーブーマーの受験期（1960 年代）

・高校入試：都市部の 14 学区のみ総合選抜制（1964･65、他は小学区制を継続）→大学区制（1966-72、全道 8 学区、学区外就学枠は定員の 10%）→大学区・中学区併用制（1973-81、全道 21 学区、学区外就学枠は定員の 5%）、学力検査の教科数削減（1968 から 5 教科 500 点）

・大学入試：能研テスト（1963-68）、大学紛争と共通一次試験（1979-99）

・全国型予備校の北海道進出（河合塾 1972［札予備の全進加盟］、代ゼミ 1981、駿台 1993）

1980～90 年代＋2000 年代：高校の多様化

①高校教育のありよう

・少子化・過疎化による高校統廃合：旧産炭地における統廃合（1990 頃～現在）、「特例 2　間口」制度による小規模校の維持（1997-2007）、統廃合の農村・地方都市への波及（2000 頃～現在）

・高校教育の多様化：公立における単位制・総合学科・中高一貫教育（中等教育学校を含む）・全国募集の導入、私立におけるコース多様化・大学附属校化、試験検定制度の変　更（1951 大検→2005 高認）

②高校教育を取り巻く環境

・登校拒否（不登校）・学習困難者への対応：定時制・へき地校の「再発見」、柔軟な高校への注目（北星余市→私立広域通信制）

・絶えざる教育改革：新学力観～アクティブ･ラーニング

③学校間接続

・第二次ベビーブーマーの受験期（1990 年前後）

・高校入試：小・中・大学区制（1982 に 9 地区 51 学区、83 に 9 地区 52 学区、2000 に 9 地区 55 学区）への転換、職業科・専門科における推薦入試の導入（1982 に入学定員の　30%以内、83 に 30%程度）、学力検査の点数変更（1982 に 5 教科 500→300 点へ）、調　査書の絶対評価への転換（2002）、大学区制（2004 に全道 26 学区、07 に 19 学区）への　再転換　【※高校裁量・普通科推薦入試は 2010】

・大学入試：大学総難化と「猫の目入試改革」（1980 年代後半～90 年代前半）、センター試験（1990）、分離・分割方式（1997）、「大学全入」「F ランク大学」の発生（2000）

【議論していただきたいこと】

※高校入試・大学入試は一括して「高等学校教育」で取り扱うと流れがいいと思うが、どうか。

※少年非行、専修学校は「高等学校教育」で触れない方がいいか？

※就職関係のことはどこで取り扱うべきか？

　総括的になら「教育行政」or「職業教育・産業教育」？

　分割するなら「義務教育」「高等学校教育」「高等教育」「障がい児教育」のそれぞれ。